

令和2年10月22日

◎森田委員長 ただ今から、決算特別委員会を開会いたします。

(10時00分開会)

◎森田委員長 御報告いたします。金岡委員から、所用のため本日の委員会を欠席したい旨の届出がっております。

本日からの委員会は、「令和元年度高知県一般会計及び特別会計の決算審査について」であります。

お諮りいたします。

日程については、お手元にお配りしてある日程案によりたいと思いますが、御異議ありませんか。

(異議なし)

◎森田委員長 御異議ないものと認めます。

《会計管理者（総括説明）》

◎森田委員長 それでは、令和元年度決算について、会計管理者の総括説明を求めます。
(総括説明)

◎森田委員長 質疑を行います。

(なし)

◎森田委員長 質疑を終わります。

以上で、会計管理者の総括説明を終わります。

《代表監査委員（一般・特別）》

◎森田委員長 続きまして、令和元年度決算に対する審査意見等について、監査委員の説明を求めます。

(代表監査委員説明)

◎森田委員長 質疑を行います。

◎大石委員 経常収支比率について、今年も1ポイント以上悪化したという御説明なんですけど、去年の決算委員会の審査報告でもこの経常収支比率、あるいは財政の状況について、より注意していかなくはないと申し送りをしたと思うんですけども、今回、退職手当債の発行抑制で人件費の一般財源充当がという御説明でしたけれども、この傾向は今年度だけのものなのか、この先もこういった傾向が続いていくのか、どういうものでしょうか。

◎森田委員長 大石委員、本課のほうで聞かれたらどうですか。

◎大石委員 監査の意見だったんで、どういう分析をされたのかなと思ったんですが。

◎中村監査委員事務局長 ちょっと理由のほうが明確に分かっておりませんので、来年度以降について、どうなるのかはちょっと今把握できていない状況です。

◎大石委員 監査としても、経常収支比率が悪化して問題だという認識と、この書き方だと受け止めるんですけども、一方で分析は余りされていないということですか。

◎中村監査委員事務局長 経常収支比率については1.6%の増ということになっておりますけれども、来年度について、どうなるかというのは今の段階では分からないと。そこはあくまでも理想とされるのが70%から80%ぐらいの数字となっておりますので、できるだけ理想の形を求めていただきたいということですか。

◎西森副委員長 ちょっと確認ですが、収入未済額でそれぞれ金額が出ているんですけども、この金額は延滞金であったり、加算税も含まれた金額ということによろしいですか。

◎中村監査委員事務局長 実際に各課で延滞金等を徴収しているかについては、対応がまちまちになっていると思います。

◎西森副委員長 例えば、5ページの収入未済額の前年度比較とかの表があるんですけども、ここに出てきている金額で、例えば、中小企業高度化資金は27億円余りあるわけです。この金額というのは、延滞金とか重加算税とかも含まれた数字として、ほかのいろいろな貸し付けだとかありますよね。それは含まれた金額として、この表に金額として出てきているという考え方でいいですか。

◎中村監査委員事務局長 延滞金については支払いがあって初めてそのときから発生するものになっておりますので、収入がなかったら延滞金は発生しないということで、入っておりません。

◎西森副委員長 そうすると、収入のほうには当然その延滞金とか加算税は入ってきた形で金額として出てきていると。調定されているからそういう形になるという考え方でいいんですよね。

◎中村監査委員事務局長 それが先ほど申し上げたように、それぞれの課によって対応が今、いろいろな状況になっていると把握しております。

◎西森副委員長 そうすると各課によって、それを含んで、実際に収入未済になっていたやつが入ってきたときに、重加算税だとか延滞金を入れ込んでいるところもあれば、入れ込んでいないところもある。今の局長の話だと、そのように思ったんですけども、それはそういうばらつきがあるということによろしいんですか。

◎中村監査委員事務局長 財産管理を総括している課において、全庁的にどういった取り扱いをしていくのかといった辺りが整理されていない部分があるかと思います。

◎西森副委員長 そしたら、実際に延滞金なりが入ってきたときには、そこに含まれない課なんかはどこに上げていくという話なんですか。

◎中村監査委員事務局長 延滞金を徴収している分については、当然収入調定を上げてまいりますので、収入として計上をされていくということですか。

◎西森副委員長 調定して上がっていれば、ここには出てくると。さっき局長が言われた

それぞればらばらっていうのをもう1回説明いただければ。

◎中村監査委員事務局長 課によって延滞金等を徴収しているところと徴収していないところがあると把握しております。

◎西森副委員長 そこに関しては、監査サイドから、統一的な見解がまず示されるのが前提と思いますが、これ取っていないですねとかいう話はしないということでもいいんですか。

◎中村監査委員事務局長 今の収入事務の監査の方法として、そこまでを監査していない状況ですので、委員の御指摘も受けまして来年度以降、その辺りについても少し監査を実施していければと思います。

◎西森副委員長 これ、監査の問題なのか全庁的な執行部サイドの問題なのか。何とも言いようがないと思いますけれども。

◎橋本委員 さっきの話なんですけれども、一応違約金とか、それから延滞金、調定しなければ発生しないので、そういうことになるんでしょうけれども、ただ会計法上ではどうなんですか。そういうまちまちで、取るところもあれば取らないところもあるということが、会計監査のほうから、そういう話が出てくること自体が法制上どうなんですか。

法制上の根拠があれば、示していただけたら西森議員の言っていることもしっかり位置づけられるんじゃないでしょうか。

◎中村監査委員事務局長 この貸付金等の収入事務について、延滞金を徴収するというのはそれぞれの貸付金なりの条例の中に定められていると思いますので、各課の運用の中で取扱いを決められて行われているということだと思います。

◎橋本委員 そうすると貸付契約の中で、ある一定きちとした延滞金の例えば取る取らないということがしっかり契約をされて、そういう契約をされているところで取っていないところはあるんですか。取ろうとしていないところってあるんですか。

◎中村監査委員事務局長 実態として、今まで延滞金等を徴収していないというところもあろうかと思います。

◎橋本委員 それで監査としていいと。

◎中村監査委員事務局長 先ほども申し上げましたように、そこまでの監査を今まで実施できていなかったのが、来年度以降の監査の中で、またその辺りも踏まえた監査を実施していきたいと考えます。

◎森田委員長 ほかにありませんか。では質疑を終わります。

以上で、監査委員の説明を終わります。

《会計管理局》

◎森田委員長 次に、会計管理局について行います。

初めに、局長の総括説明を求めます。

なお、局長に対する質疑は、各課長に対する質疑と併せて行いたいと思いますので、御

了承願います。

(総括説明)

◎森田委員長 続いて、所管課の説明を求めます。

〈会計管理課〉

◎森田委員長 最初に、会計管理課について行います。

(執行部の説明)

◎森田委員長 質疑を行います。

◎大石委員 1点だけ。会計検査結果の見える化、それから分析、フォローアップということで御説明いただきまして、去年の決算特別委員会で重大事故につながりかねない一歩手前のDランクというのは本庁も出先も2割前後あるということで、ここを注意しないといけないという議論があったと思うんですけども、令和元年度は取組をされて、平成30年度と比べて数値は改善したのでしょうか。

◎門田会計支援推進監 今年、出先の会計検査をやっていて、まだ60機関ある中の20数機関なんですけれども、前年度と比べて、Dのランクについては確実に減っております。

それで、その分類の方法として、C・D・Eこれは、もう文書で指摘をしなければならぬ案件が1つか2つか、それとも、再発防止策が必要かEとか、そういうことで分類をしております。ですので、例えば複数文書指摘あるのが減った、1つになったとかそういうものでも減るんですけども、今年回っている中で、DがBになったとか、結構出先機関の会計検査結果では、私の中では良くなっているんじゃないかという印象を持っております。

◎大石委員 適切に改善しているということで、引き続き頑張ってくださいと思います。

◎石井委員 大石委員と同じく、改善方向に向かっているかというのを聞いたかったんですけども、毎年不適切な事務処理がありますということが出ますよね。その程度によるかもしれないけれども、改善に向かっているということは、措置の取組の成果ともいえるかなと思いますが、なぜこういうことが毎年起きると考えられていますか。

◎門田会計支援推進監 分析をするんですけども、例えば、出先の会計検査、監査も含めてですけども、土木事務所ですと、収入調定の作成が遅延しているというのはもう何年も同じように指摘をされております。

我々が会計検査を行ったときに、その書類だけチェックするんじゃなく、そういうものを発見したときには職員と話をするようにしております。職員と話をし、うつらなければチーフ、さらに課長という形で、なぜそういう遅れが発生するのかというところの話合いを今年の会計検査からは実施をしています。その中で、年度末、年度初めに事務が集中をしてしまう。そこに人事異動で新しい方が来たときの引継ぎがうまくいっていないとか、

そういったことで、引き続き指摘を受けてしまうという話がありました。そうなってくると、その上の者がどうやって執行管理をしていくのか、事前に準備をどれだけするのか、こういうことが現場としては非常に大事になってきますので、その辺も含めて、我々会計管理課の職員も入って話をする、そういう取組を継続していきたいと思っております。

◎石井委員 ぜひ改善に向けてということなんですけれども、さっきも言われていたんですが、全庁的に異動があって新しい職場に行くと、引継ぎが分からないとか難しいとか、人によっては性格的にずぼらということもあるかもしれませんが、なかなか100点を取るのには難しいことかなと思いますけれども、改善方向に向かうのは重要と思います。

土木事務所の契約を含めた会計処理とかについては、金額とか、それから、契約から着工の日数の間に何をしなくてはいけないとか、40日以内でとか、いろんなことがあると思いますけれども、決まっているルールですよ。チェックシートでチェックもいいんですけども、どんな職員が来ても、大丈夫なチェックの在り方ができるんじゃないか。そろそろAIじゃないですけども、RPAとか、ロボティックなところでしっかり対応できるんじゃないかと。この措置が毎年指摘をされてどんどん増えて、研修ばかりして、部署が変わるたびにそれを覚えなくてはいけないことが、またストレスで本来の業務が滞るとか、人員が足りないのかとかいう話になってくるので、これはやっていることが、会計事務処理をしっかりするために仕事をしているのかという、それだけじゃないはずなので、もう少しいろんなことが考えられるように、職員の負担軽減、経費節減も含めて、しっかりとチェックができるようなことも、会計管理課が最後のとりでと思っておりますので、考えていただければと思います。

◎井澤次長兼会計管理課長 御指摘のとおりだと思います。ただ人が関わると、どうしてもミスが起こりがちです。デジタル化の時代ですので、できるだけそういう人に代わって機械ができることについては機械がやっていく方向に今後進むと思います。

公印についても、今後なくなってくるとか、いろいろ書類の電子化ということも進んでくると思いますので、そういうことも進めながら、できるだけミスを減らす取組を私どももしていきたいと思っております。

◎西森副委員長 先ほど監査のところでもお話しさせていただいて、監査としては、今後検討するかというところなんですけど、後ろで聞いていただいていたかとは思いますが、収入未済の関係です。延滞金、また重加算税等の判断を各課でされているという話だったと思うんですけども、それに対して、会計管理のほうとしては、どういったお考えなのかをお聞かせいただければと思います。

その判断はそれぞれの課の判断に任せるという、そういう考えなんですか。

◎井上会計管理局長 先ほどの議論にもありましたように、法令での取決め、ルールがあるはずですので、それにのっとった形態でしっかりやっていただかないといけないという

のは、もうこれは言わずもがななことではなかろうかと思えます。

ただ、我々の会計審査の中では今のところその部分をちょっと取り扱っていませんが、今回の監査委員事務局の今後の検討状況も踏まえて、我々も、どんなことができるのかは、一緒に考えてみたいと思えます。

一応、総務部を中心に管財課のほうで取り仕切ってやっていただいています。

私の記憶ですけれども、すごく長期にわたったもの、初期の取組が延滞金とかを免除して元金だけを集めることに注力していたという文書もあったと思うんですけれども、いろんな経過がある中で、いろいろ多様性を持った形になっているのかもしれませんが、それも含めて先ほどの議論を踏まえて、監査の事務局ともまた検討してみたいと思えます。

◎森田委員長 以上で質疑を終わります。

以上で、会計管理課を終わります。

〈総務事務センター〉

◎森田委員長 次に、総務事務センターについて行います。

(執行部の説明)

◎森田委員長 質疑を行います。

◎橋本委員 資料で令和元年度決算における委託料調べがありますよね。これ委託料の一覧だと思うんですが、この中で随意契約がほとんどなんですけれども、高知電子計算センターが全て入っているんですが、ここと随意契約をするメリットはどのようなメリットがあって、それから高知県総務事務委託業務だけが一般競争入札で、これをまた高知電子計算センターが受けているんですが、ここを少し御説明いただけますか。

◎岡村総務事務センター課長 まず物品管理システム運用保守委託ですけれども、このシステム開発をしたのが高知電子計算センターですので、運用保守につきましては随契で単年度契約をしております。

またその下、2つ目3つ目4つ目、3つ組み合わせあったものが、総務事務集中化システムの運用に関するものですが、これも当初、開発をしたのが高知電子計算センター、四国情報管理センター、ソフテック、この3社の連合体です。こちらが開発をしておりますので長きにわたってやっておりますので、ここで運用保守をしていくということになります。

旅費につきましては、近畿日本ツーリスト中国四国、ここが最初の開発を行いましたので、その後の運営につきましても委託をしております。

最後の総務事務の委託ですけれども、これは先ほど申しましたように、システムではなく下処理の関係もございますので、一般競争入札ということでやっております。

◎橋本委員 よく分かりました。全ての仕組みを開発されたのが、高知電子計算センターなので、基本的にはそこに随意契約ということが、整合性が取れているという話だと思う

んですけれども、そしたらずっとここと、こういう契約を続けていくことになりますよね。あと、例えば委託料についての算定なんですけれども、これについてはどんな形での算定を県としてはしているんですか。

◎岡村総務事務センター課長 ずっと随契を続けるということでもなくて、やはりシステムは何年かしますと、再構築等の問題が出てきますので、そのときにはまた新たに検討したいと考えております。システム等の内容といたしますか、その構築ですけれども、私どもは余りシステムの中身は詳しくございませんので、当然業者から参考見積もりをいただきますけれども、それは担当課、情報政策課などに回し、チェックをしていただいて、予算立てをしております。

◎横山委員 旅費の関係ですが、いろんなどころで出張されると思うんですけれども、職員が手続も面倒だから自分で出しておくとかそういうのはないですか。こう動いた分はしっかり逆に見てあげているというか、そういうのは大丈夫ですよ。

◎岡村総務事務センター課長 基本的に宿泊料とか、もろもろ上限規制がございます。高知県の場合は実費支給ですので、上限の範囲内で支給をしております。基本的にそういった旅程を作ったりするのも、旅費事務センターに委託しておりますので、そこが作成いたしますが、職員からの希望を書く欄がございますので、そういったもので対応できているかと思えます。

◎吉良委員 総務事務センターの取扱いは本庁だけじゃなく、教育委員会も含めてされているんですよ。

◎岡村総務事務センター課長 システムによりますけれども、旅費システムですとか、そういったものは当然教育委員会も含まれております。物品管理システムにつきましては、本庁だけに限定しております。といいますのも出先での物品の調達等は、やはり地元業者優先というところがございますので、本庁の物品に今のところ特化しております。

◎吉良委員 今回もお話を聞いて、教育委員会関係の給与含めてそごがあったようにお聞きしているんですが、いわゆるチェックというか、教育委員会事務局と会計との関係はどうなっているんですか。相互にやり取りができるようになっていますか。

◎岡村総務事務センター課長 申し訳ありませんが、何か具体的なことがございましたでしょうか。私が聞くのもあれかもしれませんが、どんな案件なんでしょうか。

◎吉良委員 ちょっと今ここではあれですけれども、いずれにしてもそのキャッチボールはなさっているわけですよ。

◎岡村総務事務センター課長 教育委員会から交流職員も来ておりますので、本課とのつながりもしっかり持っておりますし、何か課題がありましたらその都度協議をしております。

◎森田委員長 これで総務事務センターを終わりますが、その前に、井上局長に石井委員

が指摘をされた、部署が変わるたびに監査から同じような指摘が毎年あって、異動のたびに、その新しい事務処理の仕方、研修を行い云々と。まさに今、OA化、デジタル庁も含めてそういう部分で、基本的な正確性はもちろんですがスピードだとか、そこら辺の適正化の部分で取り組める事務のオーソライズされたOA化なんかは音頭を取っていただいて、正確性とスピードと処理の適正を進める検討もされてはどうかと思います。

◎井上会計管理局长 先ほど次長も申しあげましたように、脱判こなどの流れの中で、それと財務会計システムもかなり長い間使っていますので、いろいろ手直しもする中で、できるだけそういう形で機械的にいければ。ただ実務上なかなか難しいところもあつたりするかもしれませんが、できるだけそういうことでいけるように、それは、監査委員の監査の中でも御指摘もいただいておりますので、検討してまいりたいと考えております。

◎森田委員長 これで会計管理局を終わります。御苦労さまでした。

《監査委員事務局》

◎森田委員長 次に、監査委員事務局について行います。

事務局長の説明を求めます。

(執行部の説明)

◎森田委員長 質疑を行います。

(なし)

◎森田委員長 質疑を終わります。

以上で、監査委員事務局を終わります。

《人事委員会事務局》

◎森田委員長 次に、人事委員会事務局について行います。

事務局長の説明を求めます。

(執行部の説明)

◎森田委員長 質疑を行います。

◎横山委員 UIJターンの土木職、すばらしい取組と思っています。ぜひ土木職はじめ様々なUIJターン枠を活用して、新しい人の流れを高知県の職員からも作っていただきたいということを要請しますので、よろしくお願いします。

◎吉良委員 新卒・新採者の中で3年以内の離職者の推移は人事委員会の方で把握していますか。

◎原人事委員会事務局長 手元に数字は持ち合わせておりませんが、知事部局からの情報ですが、これまで数名程度いたことは承知しておりますが、今年度は、そういった若年層の離職、途中の離職は、まだないと聞いております。

◎吉良委員 優秀な方が受験して採用される一方で、離職者が出るか出ないかということは試験問題含めて制度そのものの評価が問われるところですので、是非そのフィードバック

クを人事委員会も注視してもらいたいということを要請しておきます。

◎石井委員 就職氷河期の採用があるというのを聞きましたけれども、募集には結構来ているんですか。

◎原人事委員会事務局長 3名で募集をいたしまして、応募が130名あり、実際に受験していただいたのが92名でした。合格者は3名です。

◎石井委員 分かりました。就職氷河期というと何歳からか分かりませんが、40代後半ぐらいの方もいらっしゃる。私は47歳ですけれども、よくナイーブ世代とかその辺の世代の方が、来ると思うんですが、その年で、新たに入ってとなると、給料とか、1級のどこに位置づけられるのか前歴換算がどれぐらいされるのか分からないんですが、例えば25年民間で働いていて、就職氷河期世代の試験を受けて入っても、ぐっと給料下がって、生活できるのかなと思うんですが、その辺どうですか。

◎原人事委員会事務局長 いわゆる就職氷河期世代は、はっきりした定義があるものではありませんけれども、私どもが行った採用試験では35歳から50歳までの方を対象としておりまして、今、正規の職に就いていない方、あるいは過去5年間で、正職員歴が1年以内の方、そういった方にそのチャンスをとということで採用いたしました。それぞれの職歴において換算の仕方がありますので、そんなに高い給料とは言えないかもしれませんが、今の給料から下がるというよりも、新たな正職員・県職員としてのチャンス、そういったものをつかんでいただいたということだと考えています。

◎石井委員 よく分かりました。就職氷河期の世代は、さっきも言ったようにナイーブ世代というか、ナイーブなんですよね。だから、入って仕事がちゃんとできるようになればいいけれども、なかなか給料も上がりづらいとか、こういう枠で入ったけれども、頑張ってもなかなか報われないみたいなどころがないようにしてほしいということを申し添えて終わります。

◎森田委員長 質疑を終わります。

以上で、人事委員会事務局を終わります。

《労働委員会事務局》

◎森田委員長 次に、労働委員会事務局について行います。

事務局長の説明を求めます。

(執行部の説明)

◎森田委員長 質疑を行います。質疑を行います。

(なし)

◎森田委員長 質疑を終わります。

以上で、労働委員会事務局を終わります。

《議会事務局》

◎森田委員長 次に、議会事務局について行います。

はじめに、事務局長の総括説明を求めます。

なお、局長に対する質疑は、課長に対する質疑と併せて行いたいと思いますので、御了承願います。

(総括説明)

◎森田委員長 続いて、総務課長の説明を求めます。

(執行部の説明)

◎森田委員長 質疑を行います。

(なし)

◎森田委員長 質疑を終わります。

以上で、議会事務局を終わります。

ここで一旦休憩します。

再開は午後1時とします。

(昼食のため休憩 11時59分～12時59分)